

もくじ

● 会長挨拶「会長就任にあたって」

EWE 会長 松本 隆

● 2015 年度 総会報告

● 新任教員挨拶

電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 准教授 浜本 道昭

電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 准教授 柳谷 隆彦

大学院情報生産システム研究科 情報生産システム工学専攻

電子物理システム学科/電子物理システム学専攻(兼務) 教授 吉増 敏彦

電子物理システム学科/電子物理システム学専攻 教授 川西 哲也

● キャンパスライフ

電気・情報生命専攻 助手 岡島佑介(内田研究室)

国際コース 修士 NGO Thang quang(朴研究室)

● 地方本部だより

東海地方本部

中国地方本部

● クラス会だより

電気通信学科 1948 年(昭 23)卒クラス

電気通信学科 1951 年(昭 26)卒クラス会

「会長就任にあたって」

早稲田電気工学会
会長 松本 隆
(1966年電気卒)

2015年5月会長をお引き受けしました。竹田前会長をはじめ歴代会長、そして関係各位のご尽力のもと、EWEは多くの実績を積み重ねてきました。本年も極力滑らかに運営していきたいと考えております。ご協力よろしくお願いたします。

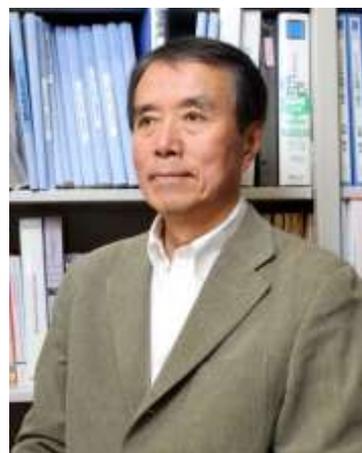
「不易流行」というコンセプトがあります。大学での「流行」が大学改革などに伴う学部・学科などの組織変更に対応すると考えると、「不易」は、学部・学科などの研究・教育の基本的な考え方に対応すると考えられます。日本の大学には戦後3つの嵐が吹き荒れ、多くの組織変更が行われました。

◆第1波 1949年5月：敗戦とともに多くのことが激変し、すべての大学は新制大学に移行して、一般教養教育、専門教育、学部・大学院の目的とその年限等の位置づけ・内容に大幅な変更が加えられました。

◆第2波 1968年5月：フランスのパリで大規模なデモがあり、一部暴徒化したことに端を発しました。原因はいくつかありましたが、その一つにフランスの大学運営に対する学生の不満があり、たちまち大西洋を越えて米国に飛び火しました。ここでの火種はベトナム戦争で、自分たちは一生懸命勉強しているのに、特に動機のない東南アジアの国まで行って人殺しをする、あるいは自分が殺されるのは耐え難いことだったでしょう。米国全体にあつという間に広がりました。日本にもたちまち飛び火し、皆さんの母校早稲田大学も大隈講堂占拠、研究室封鎖、期末試験施行不能等いくつかの異常事態が発生しました。

◆第3波 1991年12月：旧ソ連が崩壊して世界潮流が激変し、25年後の今日全く異なる世界情勢が出現することになりました。大学も社会の一部なので世界の大学が大幅な舵の切り直しを余儀なくされました。第3波に対応する改革はほぼ収束し、日本の大学は、現在おしなべて組織変更ではなく、研究・教育の本質を見極めてその質の向上に注力しており、早稲田大学も例外ではありません。本年度はEWEも組織変更の報告はないと予想されます。

こうして振り返ると、大学改革の嵐の発生源は何人も前もって取り除くことはできず、ましてや大学人のみで取り除くことなどできない性質のものでしょう。20世紀に3回嵐があったので、平均的には30数年に一度くらいはやってくる可能性があるところか、実際2015年現在、おそらくhegemony shiftとでも呼べそうな過渡現象が起きつつあり、結果として世界レベルの大嵐が遠からず起きるのではないかとおもいます。私たちの日常が根底から変わる可能性大で、大学も当然巻き込まれるでしょう。そのような大嵐で生き残る大学、より一般的には、生き残る組織の必要条件は、常日頃から「不易」の部分をじっくり考えている事だと思えます。十分条件ではありませんが。



2015年度 総会報告

《評議委員会・総会》

日時：2015年5月16日(金) 18:00～18:45

場所：55号館2F 第4会議室

出席者 59名(内評議員19名)

委任状提出 47名 評議員会ならびに総会の定数に達した。

【議事】

1. 会長挨拶 竹田 義行 会長
2. 定時評議員会の議題
 - (1) 評議員の委嘱 川原田 洋 副会長 (庶務)
 - (2) 2014年度事業経過報告 渡邊 亮 副会長 (事業)
 - (3) 2014年度収支決算報告 中津川征士 副会長 (会計)
 - (4) 2014年度会計監査報告 岡野 俊行 監事
 - (5) 2015年度事業計画案 渡邊 亮 副会長 (事業)
 - (6) 2015年度収支予算 中津川征士 副会長 (会計)
 - (7) 役員等の選任について 川原田 洋 副会長 (庶務)
3. 通常総会の議題
 - (1) 評議員会の審議事項の承認 川原田 洋 副会長 (庶務)
 - (2) EWE 学生部会報告 橋本 勇輝 学生委員長
 - (3) EWE 活性化委員会報告 鳥居 司郎 活性化委員
 - (4) EWE 三月会活動報告 唐澤 豊 三月会幹事
 - (5) 新会長挨拶 松本 隆 新会長
 - (6) 新会長代理挨拶 花澤 隆 新会長代理

例年、総会は成立していたものの、評議員会成立には委嘱されている評議員半数の出席あるいは委任状が必要なため、成立しなくなっていた。

今後は、出席、委任状提出などの実績をふまえ、委嘱を検討し、メール通知者には、個々にメールを配信することで、評議員の任務を自覚していただく。

総会終了後、懇親会が竹内記念ラウンジで開催された。

種市健元会長の乾杯でスタートし、中程で、富永英義名誉教授より電磁応用研究所の紹介をいただいた。

新任教員挨拶

バイオインフォマティクスで生命科学にブレイクスルーを起こす

電気・情報生命工学科/電気・情報生命専攻 准教授
浜田 道昭

約1年前の2014年4月1日に電気・情報生命工学科に着任致しました。現在、学部4年生7名、修士1年生4名の11名の学生と共に、楽しく研究・教育生活を送っております。



当研究室の研究領域は、「バイオインフォマティクス（生命情報科学／生物情報科学）」です。これは、情報科学、確率統計、物理、数学、化学等を駆使して生物学・生命科学の諸問題を解決しようとする学際的な学問領域です。近年、超高速／次世代シーケンサー（New/Next Generation Sequencer: NGS）などの実験・測定機器の著しい進歩により、ゲノム（遺伝子）・エピゲノム（ゲノムやヒストンタンパクの修飾）・トランスクリプトーム（mRNA/ncRNA）・プロテオーム（タンパク質）・メタボローム（代謝物）・インタラクトーム（タンパク質-タンパク質、RNA-タンパク質、RNA-RNA相互作用など）等の大量の生物ビッグデータが蓄積しており、バイオインフォマティクス無しでは生物学・生命科学を語ることの出来ない時代が訪れています。

そこで、当研究室では、100年先まで利用される、本質的なバイオインフォマティクスの理論・アルゴリズム・ツールの開発を目指しています。また、開発したツールを用いて、生命科学のブレイクスルーとなるような生物学的知見の発見を目標としています。そのため、情報系だけでなく実験系のラボとも積極的に共同研究を行っていく予定です。早稲田大学内の先生方とも様々な共同研究を行っていきたいと考えております。そのために「早稲田大学バイオインフォマティクスコミュニティ」を立ち上げました。

今後とも、皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

研究室ホームページ：<http://www.eb.waseda.ac.jp/hamada/>

早稲田大学バイオインフォマティクスコミュニティ：

<https://sites.google.com/site/wasedabioinf/>

略歴：東北大学理学研究科数学専攻修了。株式会社富士総合研究所研究員、みずほ情報総研株式会社コンサルタント、東京大学大学院新領域創成科学研究科特任准教授を経て、2014年より現職

新任教員挨拶

電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 准教授
柳谷 隆彦



上記は米粒に手書きした
EWEの文字

2015年4月に先進理工学部 of 電気・情報生命工学科に着任致しました。学位取得後は産総研や東北大をポスドクとして渡り歩き、昨年度までの7年間は名古屋工業大学で独立研究室を運営してきました。超高周波の超音波と、その医工学センサや超音波顕微鏡への応用について研究を行っております。最近では、世界で最も周波数が高く出力が強い、横波超音波を発生させる材料を開発しました。

ここまでなんとかやってこられたのは、持ち前の器用さと20世紀中頃の古い文献をたくさん読んだことによると思います。私は決して他の人より特別計算ができたか頭の回転が良いということはありませんでした。海外研究者にない特有の手先の器用さで、実験装置や電子デバイスの作製を短時間で効率良く進めてきました。装置が壊れてもその場ですぐに直してしまう、半導体プロセスを使わず強引に手先でデバイスを作ってしまうことで、研究スピードを上げ、海外ラボと渡

り合っているのだと思っています。新しい学問分野にはあてはまらないかもしれませんが、文献の学術レベルの高さは古ければ古いほど高いように感じます。学生たちは最新の文献に飛びつく傾向がありますが、研究とは論文とはどういうものか最初に学ぶには、古いものも良い助けになります。

最後に教育に関しまして、大学では高水準の専門知識を持った即戦力を育成するという考え方もあるかもしれませんが。しかし大学の機能は10年先、20年先に輝く人材を育てることだと考えております。活気ある早稲田大学で自立した学生の育成を目指して全力を注ぐ所存です。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

略歴：

2001年同志社大学工学部電子工学科卒業。同大学大学院工学研究科電気工学専攻博士後期課程修了、博士（工学）。産総研関西産学官連携センター特別研究員、日本学術振興会特別研究員PD（東北大学電気・情報系）、名古屋工業大学機械工学科助教を経て、2015年より現職。固体音響学の応用研究に従事。現在、Scientific Reports 誌（Nature publishing group）編集委員、IEEE Ultrasonic Symposium 専門委員を務める。

新任教員挨拶

大学院情報生産システム研究科 情報生産システム工学専攻 教授
基幹理工学部 電子物理システム学科 (兼担)
基幹理工学研究科 電子物理システム学専攻 (兼担) 教授

吉増 敏彦



2015年4月より、基幹理工学部 電子物理システム学科を兼担することになりました。早稲田大学には、2003年4月に大学院 情報生産システム研究科 (北九州市) に着任しており、13年目になります。

早稲田大学に着任する前は、民間企業の研究所と事業部に22年間在籍いたしました。企業の研究所で将来の事業の基礎となる研究と事業部で製品開発の両方を経験できたことは大変有意義であったと思っています。これらの経験を活かして、早稲田大学での教育と研究活動を進めてまいりたいと考えています。

私の研究分野は、無線通信用の高周波アナログ IC の設計技術です。アナログと言うと学生たちからは、古い技術と言われそうですが、自然界の現象はすべてアナログなので、いかにデジタル技術が進歩してもアナログ技術が消えてなくなることはないと思っています。むしろ、デジタル技術が進歩すればするほど、アナログ技術は重要になってきます。例えば、インテル製 CPU のクロック周波数は 3.5GHz を超え、これはもうデジタル回路技術だけでは設計できない領域に入っており、高周波アナログ・デジタル混載 LSI と言えるでしょう。

無線通信の世界では、サービスの高度化と多様化が求められています。また、無線通信に使用される周波数は有限の資源であり、有効活用が求められています。これらの要求に応えられる高周波アナログ IC の研究は大変有意義であり、また興味深いものです。

今春より電子物理システム学科学部生の教育・研究指導が始まり、新しい刺激を受けつつ、学生たちといっしょに議論できることを大変嬉しく思っております。また、EWE の更なる発展に貢献したいと考えております。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新任教員挨拶

電子物理システム学科／電子物理システム学専攻 教授
川西 哲也

2015年4月より基幹理工学部電子物理システム学科に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。昨年度まで情報通信研究機構(NICT)で、光通信技術、デバイス技術を担当しておりました。17年間勤務していましたが、その間、数多くの共同研究の機会に恵まれました。特に大学との連携がスムーズにできる体制を積極的に整えました。NICT光ネットワーク研究所光通信基盤研究室では毎年20名を超える学生さんたちが研修生または協力研究員として来られています。早稲田大学からもたくさんの学生さんたちがNICTでの研究を経験され、現在、様々な分野で活躍されています。これからは、大学側から見た研究・教育に意義のある連携をNICTのみならず様々な機関との間で進めていきたいと考えております。海外との協力も重要だと思っております。米国カリフォルニア大、ベル研究所や、欧州の通信機器ベンダー、最近ではASEAN域内の研究機関との共同研究に注力しております。これらの経験を生かして、国内、海外の「壁」を意識せずに広がりのある活動ができる人材を輩出していきたいと考えております。



これまでに、世界最高速度の光ファイバ通信や、世界最大の電波望遠鏡向けの基準信号源の開発などに挑んできました。この中で物理原理にまで戻って各要素技術を追求するということと、これらを総合システムとして組み上げていくという二つの方向性の重要性を経験することができました。今後は、システム屋、デバイス屋といった専門分野の「壁」を自由に超えて、学術としてデバイスの物理とシステムのデザインを結びつけていきたいと思っております。応用分野としては光と電波を融合する分野を立ち上げていきたいと考えております。これは、従来の無線と有線の「壁」をなくし、伝送メディアの違いを意識することなくシステムを構成していくことを目的とするものです。

着任して3ヶ月になりますが、明るい大学の雰囲気を楽しんでおります。技術として直接的に役に立つということだけでなく、学術としての深掘りをしていくことの大切さを皆さんで共有しながら、伝統ある早稲田大学の電気電子分野の一員として、研究・教育に努めていきたいと考えております。

9年目のキャンパスライフ

電気・情報生命工学科 内田研究室 助手
岡島 佑介

今年で博士後期課程3年になるとともに、学科の助手としての仕事もすることとなりました。西早稲田(旧大久保)キャンパスで過ごす9年目になりますが、キャンパスの風景は徐々に変化しています。2015年7月現在も中庭が工事中であり、完成が楽しみです。



示村研究室・内田研究室 OB 会集合写真 (筆者は後列中央)

今年は就職活動のスケジュールが去年と違うこともあり修士2年の学生に戸惑いがありますが、各方面でご活躍中の大勢の卒業生の皆様の丁寧なご指導にも助けられ、着々とプロセスが進んでいるようです。早稲田の卒業生の強い絆を感じます。

工学系で博士後期課程に進学する学生は少ないのですが、幸いなことに私の所属する内田研究室には中国からの留学生である王氏(昨年修了し、現在、長安大学)が過去在籍し、現在は社会人博士課程の塩谷氏や私の半年先輩にあたるベトナム人留学生の Nguyen 氏が博士課程に在籍しています。同じ博士学生として、彼らの研究のペース、そして留学生達の日本人との研究意欲や態度の違いなど大変刺激になっています。Nguyen 氏と英語でコミュニケーションをとることも日常に緊張感を与えてくれます。彼からは国際学会で発表を行う際にもその準備段階で文法からテクニカルな部分までたくさんの有用なアドバイスをもらっています。彼は日本語が話せないながらも早稲田の研究環境を気に入っているようです。私はじめ日本人の学生もこの環境を生かしてもっと活発に研究を続けなければならないと感じています。

My student life at Waseda University

Ngo, Thang Quang

国際コース（朴 容震研究室）



Five years ago, I achieved one of my dreams is studying abroad in Japan, at Waseda University. Before coming to Japan, I was curious, excited, but also very worried because it was the first time for me to go abroad and study in a foreign country. I wondered how my life would be in a strange country, without my family, friends, and especially without knowing Japanese. I would like to share my experiences during the undergraduate time.

The beginning time was difficult because everything was new to me and I was not able to communicate in Japanese. The English-based program helped me in the first steps to get used to the academic life. In the first two years, I took many foundation courses, which helped me understand the basic of some fundamental science subjects and lead me choosing computer science as my major.

From the third year, I joined in the Park Laboratory because of my interest in computer networking field. My research topic was the Content-Center Networking (CCN), which is one of the most promised candidates for the future network. It is total a new area; therefore I had to read many articles to understand the new concepts and tried to find new ideas. Sometimes it was very tough to understand a paper or perform simulations. Through discussions and presentations in seminars, my professor and friends helped me a lot to contribute my research and develop important skills in researching.

My student life was not only studying times but also relaxing times with extracurricular activities. From the second year, I chose to join in a badminton club among a various clubs in Waseda. From here, I had chance to make many new friends and practice badminton every week. We even joined in some tournaments and won some prizes.

If you are a Waseda Student, I recommend you to register the International Community Center (ICC) email list. There are a lot of interesting events that help you to make friends and find some volunteer or extracurricular activities. Especially, many of them are free of charge. Through ICC, I had chance to participate in a trip to travel to Nagano, give a volunteer lecture in Osaka, or experience home-stay in Ishikawa. The activities help me to understand more about Japanese culture, people and make me more love Japan.

Four years did fly very fast with full of happy or Suffering experiences. In the future, Wherever I will come, whoever I will be, this is always the unforgettable time in my life.

東海地方本部だより

東海地方本部では、去る6月9日（火）に名古屋市内において、平成27年度の総会を開催いたしました。EWE本部より松本隆会長をお招きし、地方本部からは13名の会員にお集まりいただきました。

総会は竹尾聡本部長（S49電）の開会挨拶に始まり、歓談へと移りました。

歓談の中で、松本会長から母校の近況報告として、本部と理工キャンパスの状況や平成20年に開業した副都心線西早稲田駅の様子を収めた動画をご紹介いただきましたが、久しぶりに見るキャンパスと周辺の変貌ぶりに、参加者は皆、映し出された映像に釘づけになっておりました。

最後は、恒例の「紺碧の空」「都の西北」の斉唱とエールを行った後、板倉弘計幹事（S56電）の音頭のもと、万歳三唱を行い、盛況のうちに閉会となりました。

改めて、ご出席賜りました松本会長ならびにご協力いただきましたEWE本部の皆様には厚く御礼申し上げます。

東海地方本部では、今後も定期的に総会を開催し、企業や世代の枠を超えて交流を深めていきたいと考えております。東海地方にお住まいの方や転勤で来られた方は、是非一度総会にご参加ください。ご連絡をお待ちしております。



中国地方本部だより

中国地方本部では平成 27 年度の総会を 6 月 19 日(金)にメルパーク広島で開催いたしました。ご来賓として、EWE 本部より松本会長をお招きし、地方本部会員からは 21 名にご出席をいただきました。

総会では、松本会長から EWE および早稲田大学の近況について、映像を交えてご紹介をいただき、参加いただいた皆様からは大学の最新設備等に驚きの声があがりました。また回路網結合の法則「帆足-Millman の定理」を発見された帆足竹治氏、外交官として戦争難民救助に尽力された杉原千畝氏といった偉大な先輩のご紹介もあり、大変興味深く聞き入っておりました。

総会に続く親睦会は、本部顧問の神出さまの乾杯により始まり旧交を温め合いました。今回、初めてご参加いただいた益尾さま (S58 年卒) をはじめ、多方面で活躍されている諸先輩方からお話をいただき、幅広い年代の会員が、来賓を囲んで楽しく親睦を深めることができました。

会は恒例により校歌「都の西北」を斉唱し、さらには出席者の飛躍を誓い、応援歌「紺碧の空」を出席者全員で肩を組んで歌いました。最後は、進藤さま (H21 年卒) の音頭によるエールで親睦会は盛況のうちにお開きになりました。

改めてご多忙の中ご出席をいただきました松本会長、ならびにご協力いただいた EWE 本部の皆さまに厚く御礼を申し上げます。また、今後も微力ながら母校の発展のため、当地方本部の活動を盛り上げていきたいと考えております。

最後になりますが、中国地方の親睦の輪を広げていくためにも、転勤などで中国地方に来られた方、案内が送付されていない方、またその他ご意見・ご要望がございましたら、事務局までご一報ください。



クラス会だより

電気通信学科 1948（昭 23）年卒クラス会

2015年5月13日 新宿駅近くの「大志万」でクラス会、多忙な清水も新宿なら出てこれそう、との電話だったが又も清水夫人から具合悪く欠席との報せ、岩永、永渕両氏は電話で他の様子を聞き会いたがっていたが、共に足が不自由なのでと欠、又昨年迄の出席者の染谷は直前になって体調優れぬと言ってきた。結局今までに最低の4人の会となった。

戦後の高度成長期の活躍話を語り合い、又定年後から今日に至る暮らしや互いの家庭環境などにも話が及び、2時間が瞬く間に過ぎ「また来年」と言って散会した。（高橋記）

写真は左から小川、高橋、新井、大沢の出席者4人。



電気通信学科 1951(昭26)卒クラス会

昨年のクラス会は級友の小林兄が入居している、豊洲のシニアレジデンスで開催され東京湾岸地区の発展の現状や住宅型高級老人ホームについての知識を勉強した。

今年の参加者は昨年と同じく、斎伯、堀家、谷池、小林、橋本、南、八幡の七名で南と八幡が幹事を担当した。会場場所は一昨年迄と同じく新宿が交通の利便性から選ばれ、今回は高島屋百貨店14階にある、京懐石店「福ろく寿」で開催された。

冒頭に南幹事から3月に平山先生のお見舞いに伺った際の報告があり、今回も幹事から記念写真と実施報告を先生にお伝えする事を決めた。

今年は参加七名の中、三名が米寿を迎え、大正生まれが二名の構成から話題は健康維持に話が弾んだが、全員が年齢よりも若く見られるとの発言が相次ぎ、今後も努力を続ける話になった。来年も4月26日に今年と同じ店で、幹事が斎伯、堀家の二人と決定。最後にグリーンクラブの録音に合わせ校歌を合唱し、店前で記念写真を撮って、来年の再会を誓って散会した。

2015/4/26 (文責、幹事 南、八幡)

